

平成23年度個別施策ヒアリング資料(優先度判定)【農林水産省】

施策番号	26002	施策名		農林水産物・食品の機能性等を解析・評価するための基盤技術の開発			
新規／継続	新規	領域	ライフ・イノベーション	国際的位置付け	世界最先端	AP施策	
競争的資金		e-Rad	○	社会還元			
施策の目的及び概要	農林水産物・食品の機能性等を解析・評価するための基盤技術及び機能性成分を高含有する農産物等を開発することにより、機能性に関する科学的エビデンスの取得が可能となり、適正な農産物等の摂取を通じた健康の保持増進、農産物等に新たな付加価値創出を可能とする。						
達成目標及び達成期限	・平成25年度までに、機能性成分の健康に与える影響に関する科学的エビデンス獲得のための調査手法を開発することを目標とする。 ・平成25年度までに、機能性成分を安定して高濃度で含有する野菜・果物生産技術の開発を目標とする。						
研究開発目標及び達成期限	・農林水産物・食品の機能性に関する科学的エビデンスの取得(2015年) ・農林水産物・食品の機能性に関するエビデンスのデータベース化(2020年) ・機能性成分を高濃度で含む野菜品種を育成(2015年) ・機能性成分含有量を向上させる野菜・果樹の栽培・流通技術を開発(2015年)						
23年度の研究開発目標	本施策により、平成23年度中に、 ・機能性成分に含まれる機能性成分の同定及び定量化技術を開発する ・疫学的研究や介入試験に必要な技術を開発する ・機能性成分を多く含む有望系統を選抜する ・野菜・果樹の機能性成分含有量に及ぼす栽培・流通条件を把握する						
施策の重要性	農林水産物・食品の機能性に関するエビデンスの獲得が期待されることから、農業の活性化や食品産業の振興、国民健康の保持増進を推進する上で重要な施策である。						
実施体制	研究開発主体は公募により決定。農林水産省技術会議事務局内にPO(プログラムオフィサー)を置き、プロジェクトの進行管理を行う。POは民間企業、大学関係者からなる外部委員、農水省内の行政部局、研究開発責任者等からなる運営委員会を組織し、成果、研究進捗状況の把握に努め、推進方策の検討、研究実施計画の検討等を毎年行い、研究事業の運営管理を行っている。						
H22予算額(百万円)				H23概算要求額(百万円)			
—				500			
独立行政法人名(運営費交付金施策のみ)							
H23概算要求額の内訳	【主な内訳】 ・農産物成分の疾病予防機能の科学的エビデンス(疫学調査、ヒトへの投与試験、作用メカニズムの解明)の獲得手法の開発: 400 ・当該成分を多量に含む品種・栽培方法の開発: 100						
期間	H23～H25			資金投入規模(億円)		15	
これまでの成果(継続のみ)							
社会情勢・技術の変化(継続のみ)							
昨年度優							

先度判定 (継続のみ)	—	優先度判定時の指摘 への対応(継続のみ)	
国民との科学・技術対 話推進への対応(対象 施策のみ)			